

南南協力の実践 フィジーの現場から

織本あつ子
Atsuko ORIMOTO



私は、2014年1月から、フィジー共和国で国際協力機構(JICA)の南南協力プロジェクト(正式名称:南南協力実施能力強化プロジェクト)の総括をしています。

南南協力とは、北に多く所在する先進国が、南の開発途上国を支援する「北→南」という構図から、比較的進んでいる中進国が他の開発途上国(南から南)に対し協力するという国際協力の一形態です。

フィジーは、人口約80万人。地理的にも経済的にも大洋州島嶼国の中心として重要な役割を果たす必要があることを認識しています。南南協力プロジェクトは、そのフィジーが自分達が主体となって、フィジーで実施する広域研修を通じて周辺国、特にキリバス、ツバル、ナウルのような小規模島嶼国を支援することができるような体制づくりを支援するというものです。

JICAは、毎年数多くの研修員を日本に迎えています。ただ、人口数万人の小規模島嶼国では、日本の研修に送ることができるレベルの人材は限られていたり、全世界から集まってくる研修員を対象としている研修の内容が、現在自国に必要とされている技術レベルと必ずしも合致していないという問題があります。

そういった問題を解決するためにも、JICAは、技術協力プロジェクト等を通して、ある特定の分野においてフィジーで周辺国を対象とした広域研修を実施するなど、ギャップを埋めるための努力をしてきました。南南協力プロジェクトと他のプロジェクトとの違いは、プロジェクト開始時点では、提供する研修内容が決まっておらず、フィジー政府が自分達が主体となってキリバスやツバル、ナウルからのニーズに応じて、フィジー国内の人材や政府システムを利用して短期研修を実施すること可能にしたということにあります。プロジェクト開始当初の実施機関はフィジー人事院(Public Service Commission)。南南協



力プロジェクトは、第2回大洋州島嶼国開発フォーラム首脳サミットの閉会の辞にて、現在のバイニマラマ首相によりラウンチされました。以降、人事院が主体となって、2014年11月の高電圧ケーブルジョイント技術研修を皮切りに、高級行政官研修、実務行政官研修、医療機器

技術者実地研修、エアコン修理・維持管理研修をフィジー政府機関、

教育機関、民間企業と共に実施し、キリバス、ツバル、ナ

ウルから100名以上の研修員を受け入れてきました。

参加者からは、「自分達の求めている研修はこれだった、

「(フィジーの)やり方がとても参

考になった」、「フィジーや他の島嶼国

人達とネットワークができた」などの反響を呼んでいます。

フィジーで実施する広域研修にかかる費用の大部分は、研修員の旅費です。また、参加者の旅費単価の安いアジアとは異なり、大洋州の研修は安上がりではありません。フィジー政府の恒常的な赤字予算、2015年末から2016年初頭にかけて行われた人事院の抜本的な構造改革、2016年2月のサイクロンウィンストン被害の復旧など、民政に戻ったフィジーが、他国を支援する上では厳しい状況が続いています。2017年1月にプロジェクトが完了した後、南南協力をどういった形で続けていくかは不透明となっていますが、

小規模島嶼国からの熱い視線を一身に浴び、今後もなんとかフィジーの近隣諸国に貢献したいという熱意を継続できるように協力していきたいと考えています。

